

日本アメリカ史学会
第3回年次大会プログラム

2006年9月16日(土)～17日(日) 専修大学神田キャンパス

1日目(9月16日[土])

12:00	受付開始	
13:00	シンポジウム1 「人種混淆の語られ方—ヨーロッパ、アングロ・アメリカ、ラテン・アメリカ」	2号館301教室
	【司会】樋口映美(専修大学) 【報告者】 ・弓削尚子(早稲田大学)「『人種』の創出と混淆忌避の論理—ドイツにみるネイション、『人種』とジェンダー秩序」 ・山田史郎(同志社大学)「アメリカ合衆国における異人種婚禁止法と人種の構築」 ・後藤雄介(早稲田大学)「Americasにおける『混血』論の乱反射・領有・異種混淆(仮)」 【コメンテーター】 ・鈴木 茂(東京外国語大学) ・砂野幸稔(熊本県立大学)	
17:30	総会(～18:30)	2号館301教室
18:30	懇親会(～20:30)	1号館15階ホール

2日目(9月17日[日])

	自由論題A(40分×4) 2号館201教室 【司会】安武留美(甲南大学)	自由論題B(40分×4) 2号館202教室 【司会】平田雅己(名古屋市立大学)
9:00	横塚裕子(UCバークレー校・院) 「母親教育と女性の専門領域の創出」	金澤宏明(明治大学・院) 「米布互惠条約の締結とそのハワイ併合への影響」
9:40	安田こずえ(東京大学・院) 「20世紀転換期における女性の喫煙と自己実現」	川上耕平(九州大学・院) 「冷戦とプロパガンダ—トルーマン政権と広告評議会(Advertising Council)の関わりをめぐって」
10:20	小川真和子(水産大学校) 「戦時中における日本、中国、アメリカ人女性の民間外交—World's Woman's Temperance Unionでの活動を中心として」	西川秀和(早稲田大学) 「トルーマン政権のポイント・フォー計画の歴史的位置付け」
11:00	南 修平(一橋大学・院) 「港湾都市ニューヨークの変貌と揺らぐ労働者のアイデンティティ—ブルックリン海軍造船所の盛衰を事例として」	藤原郁郎(コロンビア大学・院) 「銃規制における因果関係の方法論的考察—シャル・イシューとプレイディ法の影響を通じて」
11:40	昼 食	
13:00	シンポジウム2 「戦争体験、記憶、和解—第二次世界大戦・原爆・ヴェトナム戦争後の赦し、癒し、共生の可能性と限界」	2号館301教室
	【司会】佐々木卓也(立教大学) 【報告者】 ・直野章子(九州大学)「『和解の語り』が覆い隠すもの—原爆被害の記憶をめぐって」 ・藤本 博(南山大学)「戦争の体験・記憶と『和解・共生』意識の形成—ヴェトナム帰還米兵をめぐって」 ・小菅信子(山梨学院大学)「戦後和解の枠組、事例、比較—日英と日中のケースを中心に」 【コメンテーター】 ・油井大三郎(東京女子大学)	
16:30	閉会	